

日本の成り立ちと倭の王権

	旧石器時代	縄文時代	弥生時代
時期	～1万2千年前ごろ	1万2千年前～紀元前4世紀ごろ	紀元前4世紀～紀元3世紀ごろ
遺跡	岩宿遺跡、野尻湖発掘	大森貝塚、三内丸山遺跡	登呂遺跡、吉野ヶ里遺跡
遺物	打製石器	磨製石器、縄文土器、竪穴住居	磨製石器、弥生土器、竪穴住居、青銅器、鉄器、高床倉庫
仕事	狩りや漁・採集	狩りや漁・採集が中心	稻作が広まる
社会	岩かけなどに住む、獲物を追って移住する	台地に住む、貧富の差が少ない社会	低地に定住、指導者が現れ身分の差が大きくなる、国の出現
信仰		自然信仰、土偶	豊作を神に祈る祭り

縄文時代・・・

縄目のような模様がつけられた縄文土器がつくられ、狩りや採集を中心に生活していた時代

◇日本列島の成立・・・

約1万年前に氷河時代が終わって海面が上昇し、日本列島が成立した。

◇土器の製作・・・

日本列島が成立したころから土器がつくられるようになる。縄目の模様がみられる縄文土器が多い。

◇生活・・・

狩りや漁・採集が中心で、農耕・牧畜はあまり行われない。小さな集団で、竪穴住居に住んでいた。

◇道具・・・

縄文土器のほか、磨製石器を使用。まよけや豊かさを祈るために使われたと考えられる土偶が作られた。

◇遺跡・・・

貝塚（縄文時代の人々が食べ物のかすなどを捨てたあと）から、当時の道具や骨が見つかり、縄文時代の生活を知ることができる。青森県の三内丸山遺跡から、大きな建

弥生時代・・・

稻作が行われ、弥生土器が使われていた時代を弥生時代といい、紀元前4世紀ごろ～紀元3世紀ごろまで続いた。

◇稻作・・・

紀元前4世紀ごろ、大陸から稻作が伝えられる。稻作は、東日本まで急速に広まった。

稻を蓄える高床倉庫が作られ、石包丁などの農具が使われた。

◇金属器・・・

稻作の伝来と同じころ、青銅器や鉄器も伝えられる。青銅器はおもに宝物として、鉄器は武器や工具として使われた。

◇土器・・・

縄文土器よりも模様が少なく、使い道に合わせてつくられた弥生土器がつくられるようになった。

◇生活・・・

水田の周りに竪穴住居を建て、村をつくっていった。集団の作業を指導する者が現れた。吉野ヶ里遺跡は、集落の周りがほりや柵で囲まれている。

国の出現

◇小さな国の出現・・・

飲料や用水などをめぐる争いがおこるようになり、豪族や王が支配する小さな国ができるようになった。

◇紀元前後の倭・・・

100あまりの国があり、中国に使いをおくる国もあったことが、中国の歴史書に記されている。

◇金印・・・

1世紀の半ば、奴国の王が漢（後漢）に使いをおり、皇帝から「漢委（倭のこと）奴国王」と刻まれた金印を授けられた。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見されたものがこの金印であると考えられている。

◇「魏志倭人伝」からわかること・・・

①3世紀の倭には、邪馬台国という国があり、女王卑弥呼が30あまりの国を従えていた。身分の違いがあった。

②卑弥呼は中国の魏に使いをおり、皇帝から親魏倭王の称号や金印・銅鏡などを授けられた。

古墳と大和政権（ヤマト王権）

◇古墳・・・

王や豪族の墓。円墳・方墳・**前方後円墳**などの形がある。**大仙（仁徳陵）古墳**は最大の古墳である。

◇大和大国（ヤマト王権）・・・

3世紀後半、大和（奈良県）を中心とする地域に成立した政府を**大和政権（ヤマト王権）**といい、氏と呼ばれる集団でまとまっていた豪族によって組織されていた。この地域には、巨大な前方後円墳が集中している。

◇大和大国（ヤマト王権）の発展・・・

5世紀には、東北南部から九州までの国を従えるようになった。大和政権（ヤマト王権）の王は、各地の王を従え、**大王**と呼ばれるようになった。

◇古墳文化・・・

古墳の周りや頂上には素焼きの**埴輪**が置かれ、墓の内部には、鏡・玉や鉄剣などが納められた。

大陸とのつながり

◇中国・・・

5世紀ごろから南朝と北朝の対立が続く（南北朝時代）。5世紀に大和政権の大王は、倭王としての地位と朝鮮南部の支配権を認めてもらおうとして、南朝にたびたび使いを送った。

◇朝鮮・・・

北部で高句麗が勢力をのばし、南部に**百濟**と新羅が成立。伽耶（加羅、任耶）地域の小国や百濟と結びついた大和政権は、高句麗や新羅と戦った。

◇渡来人・・・

朝鮮半島や中国から移り住んだ人々。須恵器の製法や高級な絹織物の技術、土木技術、漢字、儒教などを日本に伝えた。